

学び合い、高め合い、励まし合い、認め合う教育の追求

## 全国協同学習研究会会報 2006年度 3号

発行日：2006年12月8日

事務局：[REDACTED]  
[REDACTED]  
[REDACTED]  
[REDACTED]

本号には来年2月16日の第38回全国協同学習研究大会の二次案内を同封しました。犬山市立犬山北小学校が会場です。ぜひご参加ください。また17日には犬山北小学校を会場とする「子育てフォーラム」があります。

安永悟さん(日本協同教育学会会長・久留米大学)の著書

### 『実践・LTD話し合い学習法』(ナカニシヤ出版)出る

久留米大学の安永さんが、自らの大学での実践的裏づけを持つ協同学習、LTD話し合い学習法の実践と理論の本を出版しました。すでに小、中学校でも取り組みの事例が出てきているようです。ご自身の書かれた「前書き」を持って、ご紹介にします。

学生の変化・成長をいかに演出するか。いま、大学教育に求められている根本的な課題です。学生の変化・成長は大学生生活全体の成果として現れます。サークル活動やクラブ活動、インターンシップやボランティア、就職活動やアルバイトなども学生の変化・成長を促します。しかし、その中心は授業を核とした大学での教育と学習に求めるべきです。いま、授業を通じた学生の変化・成長を促す試みが全国の大学で真剣に検討されています。

本書で紹介するLTD話し合い学習法は学生の読む力、考える力、話す力を育む理想的で実践的な学習モデルです。思考過程と対人関係に関する心理学の知見に裏打ちされた、仲間との対話を通して学び合う効果的な学習法です。

LTD話し合い学習法は授業改善の有効な指針としても役立ちます。仲間との対話を中心とした授業を展開することにより、授業に対する学生の参加意識と学びに対する動機づけを高めます。授業に直接導入しなくても、指導者がLTD学習法の理論と方法を熟知すれば講義形式の授業にも応用でき、授業改善の一助になります。

LTD 学習法の理論と方法は LTD 過程プランに凝縮されています。過程プランは「導入、語いの理解、主張の理解、話題の理解、知識の統合、知識の適用、課題の評価、活動の評価」の 8 ステップで構成されています。各ステップの意味と方法を理解し、その手順に沿って学習を進めると LTD に期待される効果をえることができます。

LTD 学習法の最終的な目的は学習者一人ひとりが学習課題の理解を深めることです。結果として記憶が促進されます。加えて、以下に示す対人関係能力やコミュニケーション能力、論理的思考能力や建設的評価能力など、現在社会が求めている幅広い能力の向上も期待されます。実際、LTD を経験した多くの学生が自分自身の変化に驚き、仲間の素晴らしさに感動し、仲間と共に学ぶ喜びを実感しています。

- ①学習課題の理解が深まり、記憶が促進される。
- ②論理的思考能力が発達する。
- ③問題解決能力が向上する。
- ④ディスカッション・スキルが向上する。
- ⑤対人関係スキルが発達し、仲間意識が向上する
- ⑥効果的な学習法と教授法が身に付く。
- ⑦学習への動機づけが高まり、学校が好きになる。
- ⑧民主主義に必要な基本的態度が身に付く。

本書では過去 10 年にわたる大学や専門学校での実践研究をふまえ、LTD 学習法の実践方法や留意点などを分かりやすく解説しました。本書を通して、一人でも多くの皆さんに LTD 学習法の素晴らしさを知っていただき、生活を豊かにする一つの知恵として、LTD の考え方や方法を日々の学びに活かしてもらいたいと思います。

本書は第 1 章から読み進めていただくことにより、LTD 学習法の全体像、具体的な方法、LTD を活用した授業と評価の方法を理解できるように構成しました。第 1 章では LTD 学習法についての基本的な事項を述べます。第 2 章では一つの学習課題を取り上げ、LTD の予習方法を具体的に解説します。第 3 章では、LTD ミーティングの基本ルールについて説明した後、事例を示しながらミーティングの方法を説明します。LTD 学習法では予習もミーティングも同じ過程プランに従います

第 4 章では LTD を実践する際に必要となる協同学習に関する基礎的な知識を紹介し、第 5 章では大学の授業に LTD を導入する方法について述べ、第 6 章では LTD に関する評価方法について解説します。そして、巻末の付録には LTD を授業で実践するとき役立つ各種の学習教材や心理尺度を載せています

最後に、補考として短縮版 LTD 学習法を紹介し、LTD 学習法の有効性を維持したまま、授業に導入しやすい工夫を凝らした簡易版を提案します。

LTD 話し合い学習法を通して一人でも多くの皆さんに学びの楽しさと面白さ、仲間と真剣に学びあう喜びを知っていただきたいと思います。豊かな人生のために学んでいる皆さんに本書が役立てば幸いです。

## 授業改善挑戦のために

山本美一（名張市立つつじが丘小学校校長）

2003年8月末。台風接近の日にもかかわらず、杉江先生には名張市に初めてお越し頂き、職員に授業改善に係わる講演をお願いしてから本年度で4年目を迎えました。途中、2005年4月には私の転任で現任校に赴任し、新たな職場で職員とともに杉江先生の指導を受ける機会を授けていただき、学校経営の中心に授業実践を据え、協同学習の手法を取り入れながら教師の授業改善への挑戦を続けています。小手先の壁の色を塗り替える改善ではなく、180度教師の意識転換を図る授業改善に挑戦しながら、学校の文化を塗り替えようと少しずつ歩み続けているところです。

学級経営で担任が子どもをつないでいくために、「綴る」という手法を用いていますが、私も教師をつなぐというささやかな願いを込めて、「校内研修メモ」を不定期に出しています。2学期が始まり運動会のさなかですが、以下、その立ち上がりでのメモ48・49号です。

### ◎授業改善挑戦のために一夢をえがく日 第二段一（校内研修メモ48）

夜から降り続いた恵みの雨は思わぬ涼しさを運びいれてくれ、二学期始業式は落ち着いた雰囲気でのスタートを切ることができました。今日の始業式は一学期の始業式に続き、仲間とともに一つ上のレベルの内容を学んでいこうとする新しい自分づくりの出発日です。＜4月6日始業式後の学級指導の中で、自分1人だけでなく、35人が3学期の最後の日に「楽しかったなあ」と話せる1年をお互いにつくっていこうね、と話しました。＞と、学級通信に書かれていたことをこのメモ36に書きましたが、9月1日の今日は前述のように、さらに一つグレードを上げた学級づくりの課題を子どもたちと共有したのではないのでしょうか。

8月24日の職員会議で、9月1日の教室環境づくりについて前日までに準備をと話をしました。1日の朝、子どもたちの登校までに、どの教室の黒板にも担任の先生からの、あいさつを含めた迎える言葉と二学期の目標が、やさしい言葉で綴られていました。教室に入った子どもたちは、かばんも置かずに、まず、黒板の文字を読んでいた。そして、かばんを片付け、教室、廊下の窓を開け、明かりをつけていました。それらの子どもの姿を眺めながら、担任の先生の一言が子どもたちにこんなに響くものだと思われながら、始業式前日までに教室を綺麗に片付け、子どもを向かえるメッセージを書き、教室環境を整えられていることに、担任の先生方の熱い思いを感じ、二学期もいいスタートが切れるなと思っていました。また、中には、教室で一人ひとりの子どもを迎え、声をかけられている先生もおられ、子どもたちにとってはうれしいスタートの日になったと思います。

今日は新しい自分づくりの出発日第二段であり、ゴールに向けて夢をえがく日第二段でした。そういう立ち上がりには、黒板への決意、教室の空気の入替え、明るい教室のための蛍光灯つけ、朝の声かけ等、様々な工夫のある仕掛けを施す中で、子どもたちのやる気をかもし出そうとされていました。

このことをこうして文章にしたり実際に行動してしまえば、なんだそれだけかとなってしまいやすいことですが、そうではなくて、そのように気づきができることが、感性の鋭さであり、行動できることがその人の人間力の大きさであり、しかも、一人の教師ではなくてどの教師も出来るというところに、子どもの力を信じ拡大していこうという文化が学校に生まれていると考えることができます。更に、そのことは、子どもたちもピグマリオン効果として同時学習をしています。

今朝の始業式も静かに話しが聞けていましたが、それは、前述のような教師の仕掛けがあったからだと思っています。

さて、これから暫くは運動会に向けて一色になりますが、教室環境も子どもの作品と共に次の視点を意識して整えていきましょう。

- ① 指導者の意図や願いが伝わるものを
- ② 子どもの自己存在感が表れるものを
- ③ 学習の軌跡が分かるものを
- ④ 指導者と子どもたちの対話がみられるものを
- ⑤ 指導者の情熱が感じられるものを

#### ◎授業改善挑戦のために一発想の転換—（校内研修メモ 49）

<全体で指示したことをそれぞれの先生が子どもの中に入り、子どもの動きをよくみながら、子どもの動きに不足しているところを具体的に指示してくれているので、全体指導が非常にスムーズに進みやりやすい。子どもたちも集中して取り組んでいる。>こんな内容の話を1限目の全体練習終了後に体育主任の先生が話してくれていました。初めての全校練習でしたが、これまでのような生徒指導で時間をさかれることが無く、練習そのものに集中して取り組み、子どもたちも先生たちも気分よく全校練習を進められ驚いていました。また、予定していた時間よりも10分早く終わることができ、更に、2限目の開始も<35分のチャイムの合図を、開会式の練習した自分の場所に立って聞けるようにしよう>という約束で解散したことを、ほとんどの子どもたちが実行出来、良い面の相乗効果を感じていました。

前述のことは1・2限目練習の感想ですが、今朝の打ち合わせ後に、昨日の学力向上のための研修会での感想を、鋭く漏らされている先生方がいましたが、学力調査で点数アップにかかる取り組みや国語4年生「一つの花」の授業ビデオの授業展開について、鋭い感想を持たれたことに、先生方の並々ならぬ意気込みを感じ、本校の取り組みが発展途上にあるなど嬉しさを覚えていました。

さて、この二つの出来事を整理しながら、その要因を見極め、次へのステップにしていきたいと思います。

- ① 毎日の授業の中で全ての先生方は、教え込みスタイルの教授方法を脱却し、子どもたちの自己決定の場面やそこに至る思考時間を大切にしているということ。即ち、課題とゴールを設定し、「待つ」という姿勢がつくられつつあるということ。全校 629 名を指示・命令だけで動かそうとはせず、何をするのか（課題）、どういう方法でするのか（手順）、何が出来たらいいのか（ゴール）、それらを具体的に分かりやすく話し、「待つ」という姿勢で臨み、更に、各学年、学級で担任がきめ細かい支援に回る。一見時間がかかるようであるが、実はスムーズに動け時間短縮になる。
- ② 感性教育で言われている、プラスのストロークをシャワーのように降り注ぎ、ピグマリオン効果を持てる教師集団であり、共通の指導方法を共有している。体育主任の 1 限終了後の感想はそれを物語っており、ゴールの後は必ず振り返り、良かったことを沢山ほめ、次の課題への注文をつけて、そして、「待つ」という姿勢に徹し、出ればすかさず誉める。1 限 2 限のつなぎと始まりの言葉はまさにそうであったと思われる。
- ③ 子どもに如何に教えるかという視点から、子どもに如何に学ばせるか視点への転換がなされつつあることは、前日の研修会での講演内容やビデオ授業記録の参観から、鋭く指摘が出来ていることで実証されている。教師に向かって一生懸命答えを言っている姿に、競争原理を同時学習している子どもの姿をみとれるかという問いかけに、答えられる教師集団に発展しつつあると考えられる。

すべての子どもは伸びる、また、伸びたがっている。そのことを信じ、子どもたちの成就感、達成感、自己有用感を育むため、課題、手順、ゴール、振り返り、の過程を重視し、自己決定の場面を多くつくっていき、待ちの姿勢を大切にしたいと思います。そのために、これまでの発想の転換を自分自身に課して、授業改善に挑戦したいと思います。

## 小松市立丸内中学校研究発表会報告

11 月 24 日、小松市立丸内中学校で、県教委、市教委の研究指定を受けた発表会「確かな学力を育む指導の研究—学び意欲を高める授業を目指して」が開催されました。

協同学習の原理を積極的に導入し、生徒主体の学びをいかに作っていくかという努力を、横につながった教師集団が重ねた跡がしっかりうかがえる発表会でした。生徒たちの落ち着いた学びの姿を参観者は見る事ができました。学びの態度や学力の伸びも確実に得られているという資料も示されました。

学びを促す仕掛けとして、1 学期用、2, 3 学期用の『学びくん』という、全教科、全学年にわたるシラバス集を作りあげ、また、単元単位の学習指導計画の徹底など、学習指導観の転換を確実にうかがうことのできる実践が示されました。 (杉江 記)

## 今思い出すこと

望月和三郎（東京協同学習研究会事務局長）

新卒で中学校数学科の教師として着任した時、職員室の机の位置は、学年主任（英語担当）の隣だった。「何でも分からないことは遠慮なく聞きなさいよ」が最初の言葉だった。緊張していた。授業準備に忙しく、必要以上のことは聞かなかつた。

2か月ぐらい経った時、学年主任から「私の授業を見たら」と声を掛けられた。学級経営・教科経営で悩んでいたときだった。4クラス担当のうち一番やりずらかつたクラスの英語の授業。恐る恐る見に行った。ガタビシッと教室後ろの入り口のガラス戸を開けた。途端に50人を超えた子供たちの目私を見据えたようだった。折角の集中力を殺いだよう申し訳なかつたが、先生はニコニコと笑顔で迎えてくれた。

授業に活気があつた。説明の分からない子が隣の子に聞いている。彼は私の授業の時も同じようにしていた。その子の様子を見て注意することもなく「今の説明がよく分からない人」と彼の方を向くようにして声をかけた。ちょっと間をおき、彼に「どんなところかな」と指名した。彼の発言には何か元気が無かつた。彼から声を掛けられた隣の子が彼に耳打ちしていた。先生は全体を見回しながらほんのちょっと間をおいた。彼の分からなかつたことがクラス全体の課題になり、授業が生き生きと進められていった。

授業が終わり、お礼を言った時「今の授業に対する感想は」と聞かれた。子供たちの様子を観察しながら間をとつたこと。私が手こずっていた子への声掛けの仕方、などと感想を述べた。「ありがとう。今度は君の番だね。空き時間に行くので余りにしないでやりなさい」と言われた。

例のクラスの授業を見にいっちゃつた。「俺の授業の時よりも、彼が生き生きしていたね。彼のよさをよくつかんでいたね。あれで良いけど、もっと肩の力を抜いて、間のとり方を考えると良いよ」と、一人一人の子に注ぐ教師のありようを示してくださった。

そして、メモでもいいから、日案を必ず書いて授業に臨みなさい。とおっしゃつて先生の日案を見せてくださった。授業の時の観察状況が克明に記録されていた。——いつ記録されたのか。あの間の時かな。

年間予定、単元の予定・週案などは例えて言えば列車のダイヤである。要は教師がその単元の見通しを持つことだ。そして大事なことは、子供がその子なりに学習への見通しを持つように仕向けていくことであり、予期せぬ駅に停車することもある。その道草が大事。学級全体はさまざまな種別の列車の集まりである。しかし、いつかは予定の時刻に終着駅に着くようにしなければならないのである。だからと言って、彼のような列車を見捨てるのでなく、他教科の情報を得ておくと、彼に限らず、子供たちは総合した力を発揮するようになる。

学習は学級で行われているので、教科指導と望ましい学級経営とを<sup>な</sup>縋い交ぜにして総合

的に見ることが大事である。これは君の担当する学級構成員、いやすべての子に対する教師のありがたさと思うがね。

一人で思い悩まないで教師や子供たちと切磋琢磨し合い、肩の力を抜いて子供たちに接することが一番大事。

新卒早々に先輩の授業を見学し、教えられたことが、さまざまな苦難に遭遇した時の支えになり、教師生活の基盤になっていたように思う。

授業で、学級活動で、学校生活全般の中で共に汗を流し、泣き笑った子供たち一人一人の生き生きした顔が浮かんでくる。

## 学校の力

杉江修治（中京大学）

学校が子どもの育ちにどれほど有意義な環境であるのか、そのことをしっかりと捉え返し、学校の力をより強く、より広く発揮したい。

### ○ 学校の働きかけは成功の方がはるかに多い

いじめが原因と考えられる子どもの自殺が相次ぎ、学校は何をしているのかと、一方的な学校批判が重ねられてきている。子どもの適応に対する学校側の対応に一定の問題があったことはおそらく事実であろう。しかし、批判の嵐の中で、学校の力を見失わないようにしたい。学校の力を、教師集団が改めてきちんと捉え返しておきたい。

実際、子どもたちは、この複雑な社会にあっては、学校でこそ、社会に巣立つための豊かな学びが可能であるといって差し支えないように思う。学校が子どもの幅広い適応に果たしている役割は、マスコミで取りざたされる対応のまずさの事例に比べはるかに大きいのである。教師自身、そのことを忘れてはいけないと思う。学校は誠実に、自らの仕事を果たしてきており、確実に成果をあげてきているのである。

人間のすることであるから、満点は難しい。起きてしまったいじめへの誠実な対応は必要である。ただ、程度の差はあれ、いじめの責任を学校がすべて負っていたら、問題は解決しない。外向けのポーズをするにとどまっていたのでは、問題はかえって深刻化する。初動の対応は、現在ではおそらく学校が取らざるを得ないにしても、問題の解決には、家庭、地域とのパートナーシップが絶対的に必要である。

### ○ 学校でこそできることがある

子どもたちは基本的に学校に通うことが好きである。そこでは、仲間との交流があり、

教師との交流がある。子どもたちはそういう環境の中ですくすくと成長している。

学校は単に楽しいばかりの場所ではない。そこはまた「課題解決志向」的な経験の場である。成長の手ごたえを実感する機会である。仲良しの交流は地域でもできるが、それはいうならば水平的な人間関係である。仲間との協同による達成を通してできる深みのある人間関係の経験は、学校でこそ可能となる。教科の学習や特別活動などでの自治的活動がそれにあたる。

そして、学校はそういった経験を子どもに系統的に伝える組織的、専門的なノウハウをもっている。このことを確認し、自信を持って、より大きく、より広く、より深く、学校の力を子どもに伝えたい。個別の課題への対応は重要だが、そればかりだと先に進まない。さらに、学校の力を前に向けて動かすことが必要である。

### ○ 学校の力を確信した、教師による前向きな自立的改革を

マスコミや行政がイメージしている教育問題への「対応」という構えには創造的な面がない。それらははっきり言って「素人の考え」である。行政的な「器の改革」で終わらないことが現場では必要となる。器の改革の発想の問題点は、基本的に後ろ向きなことである。九州のある都市で、首長の発案による教育改革のガイドラインを読む機会があったが、その中身は、問題への対応のリストに終始していた。昨年出された知事のお声掛りの「愛知の教育を考える懇談会」も全く同じ発想で報告書を出していた。目の前に生き生きとした子どもを見ていない人たちの改革に振り回されてはいけなかつつくづく思う。

学校の有意義であることを踏まえた前向きな取り組みが、可能であり、必要である。例えば犬山市では、教育の諸問題に対応するためには学校の自立が最重要の課題と考えている。学校からの、自立的、専門的な立場からの改革こそが有効なのだ。制度に縛られる不便さはまだまだ続くであろうけれども、いざ、教室に立てば、教師が磨いた専門性を生かした効果的な実践が可能ならずである。現場を預かる強みをぜひ発揮したいものである。

### 事務局からのお願い

新しい年度に入りました。会員の方々には会費納入よろしく申し上げます。

1年分 2000円です。昨年度未納の方は4000円の納入をお願いいたします。

郵便振替 □座番号：名古屋前山郵便局 00800-8-166589

□座名称：全国協同学習研究会

### 事務局からさらにひとつ：e-mail アドレスをお持ちの方へ

この会報並びに様々なご案内をe-mailで送ってもかまわないという会員の方々、空メールで結構ですので事務局宛 XXXXXXXXXX、アドレスをお教えてください。経費節減という事務局の勝手なお願いですが、ご協力いただければありがたく存じます。